

実績報告書

1 事業者名	Challenge For the Future
2 事業名	エコツーリズムにチャレンジ！！ feat. みしまエコツーリズム
3 実施期間	2022年7月10日～2022年9月4日
4 実施場所等	静岡県 三島市 杉並区西荻地域区民センター
5 対象年齢・参加人数	小学4年生～高校3年生 44名（小学生19名、中高生25名）
6 参加費	無料
7 内容	<p>2022/4/14 幹部会議 スタッフ2名 必要な準備の役割分担、スケジュール立案</p> <p>2022/4/16 メンバー顔合わせ スタッフ8名 明治大学木寺ゼミ生とCFFメンバーの初顔合わせ</p> <p>2022/4/24 チラシ案出し スタッフ8名 レイアウトや、どういう写真、内容にするか等、具体的に決定</p> <p>2022/5/7 実地調査 スタッフ7名 2台の車に分乗し三島へ。現地で夏のプログラムについての打ち合わせを行い、当日歩くルートを散策。</p> <p>2022/5/11 幹部会議 スタッフ3名 応募方法について具体的に決定</p> <p>2022/5/28 チラシ配布準備 スタッフ3名 区内小中学校、小4～中3の生徒数を数え封筒詰め。区内高校宛の封筒詰め。</p> <p>2022/5/28 説明会企画出し スタッフ7名 オンライン説明会の内容決め。対面で会えない分をどうカバーするかについて話し合う。</p>

2022/6/15-2022/7/4 応募期間対応 スタッフ全員

グーグルフォームに入ってくる参加希望者に対し、受付したことを個別に返信。

2022/6/27 EISJ 説明会 スタッフ1名

CFE 代表が英語で本事業の概要、注意事項などを英語で説明する。

2022/7/3 説明会事前準備 スタッフ9名

班別アクティビティで行うオンラインクイズについて詰めの準備を行う。

2022/7/10 参加者説明会 スタッフ11名、参加者40名

午前、小学生、午後、中高生と分けて事業についての説明、及び班ごとに担当大学生スタッフとクイズ大会などを開催し、オンライン上での親睦を深める課題についての説明を行う。

2022/7/12 参加者説明会欠席者用会 スタッフ2名

10日の参加できなかった人へのフォローアップ。

2022/7/17 小学生回 スタッフ11名、参加者19名

三島市へ行き、水の都と呼ばれる歴史的、環境的背景を学ぶ。
バスの中で、課題であった「自分の理想の川」の絵をお互いに見せあう。現地についたら3班に分かれて、GW三島のガイドが三島の地形、水、生き物についての様々な説明を行う。昼食後は源兵衛川に入って約2kmの散策路を川の中に実際入って歩いていく。目的地梅花藻の里では梅花藻の清掃作業を体験し、GW三島の方より三島についての街の歴史、水の歴史をお話してもらおう。三島市から少し離れた柿田川公園へ行き、チラシの写真としても使われた、真ん丸い形をした美しい湧水池を見学する。帰りは渋滞だったが、たった一日でも打ち解けた参加者は、大学生スタッフをつかまえて、しりとりやゲームで楽しい時間を持った。

2022/7/31 会議 スタッフ8名

小学生回の反省点を確認。小学生の次の課題、中高生の課題について話し合う。

~2022/8/8 中高生レポート提出サポート スタッフ全員

あなたの身近な川についてのレポート、という課題を出す。
内容があまりに薄い場合は、バディが指導する。

2022/8/8-2022/8/21 中高生レポート提出サポート スタッフ全員

中高生参加者全員がレポートを提出するよう、粘り強く指導にあたる。

	<p>2022/8/21 中高生回 スタッフ9名、参加者25名 行程は小学生回と同じ。ガイドさんも同じ方だったが、説明の内容は、中高生向けにより詳しいものだった。この日はちょうど県民の日で、楽寿園はとても賑やかで出店が出ていたため、昼食時、参加者同士が一緒に食べ物を買っていくなどして楽しい時間を過ごすことができ、その後の活動も和気あいあいとしたムードだった。</p> <p>2022/8/21-2022/8/28 感想文提出サポート スタッフ全員 小学生、中高生に対し、今回の事業で感じたことを感想文にして提出してもらうよう促した。</p> <p>2022/9/4 午前：小学生 午後：中高生 報告会&ディスカッション スタッフ9名、参加者37名 各回とも、最初に当日の様子をスライドを使って大学生スタッフが説明した。そして、当日の班に分かれて大きな模造紙に、理想の川、コミュニティを描いてもらった。最初はなかなか手が動かなかったが、段々と大胆に絵を描いて余白を埋めていき、素敵な絵が出来上がった。その後、三島で体験したようなきれいな川、きれいな街を作るために自分自身は、或いは学校や団体は、或いは国や行政は何ができるか？何をすべきなのか？という問いに対し、ポストイットに意見を書き、それをホワイトボードに貼り付けた。整理された意見をみなで共有した。小学生、中高生と年齢が違っても、意見や、アイデアはとても似通っていたことは予期していなかった。参加者の保護者や地域の協力者にも積極的に関わっていただき、子供達が出した意見を見てもらった。子供達に実体験をさせ、社会的問題に意識づけができたことは、とても良かったという声が多かった。今回はネパール人の参加者もあり、言葉の壁があったが、語学スタッフを充てたことで、日本人と同様に実体験を楽しんでもらうことができた。EISJの先生も引率に来られ、三島の美しさに感動しておられた。ネパールではゴミがあちこちにある、どうやったら三島の人のように意識を改革できるのだろうか、とおっしゃっていた。</p>
<p>8 効果</p>	<p>1. 参加者 30年かけて街をあげて清掃活動や梅花藻の育成を手掛けてきた三島の人々の取り組みを知り、三島の美しい水は人の手によって守られていることに驚きと感心の気持ちを持ち、自分たちの身近な川を見直すきっかけとなった。</p> <p><参加者の感想> 小学6年生 エコツーリズムを通じて、自然はどれほど素敵なものなのか、なぜ、それを自分たちで守らないといけないのか。それは、自分たちが川を見捨ててゴミなどを捨てたりすると、川が汚れて自分たちにも影響したり、何より自分たちのせいでそこに住む生物が、プラスチックを飲み込んだり、住む場所がなくなったりして死んでしまうからだとわかりました。この経験を次に生かせるよう、工夫をしたり取り組んでいきたいと</p>

僕は思いました。

小学6年生

川遊びがとても楽しくてみんなにたくさん水をかけた。水がきれいでびっくりした。ただきれいなだけではなくて、一度は汚くなってしまった川を街の人がみんなで協力してきれいにしたところが凄い。そしてきれいにしたら水がきれいなところにしか住めない植物が生えて、そういうところにしか住めない生き物もかえてきたことも凄い。近所の緑色の川もみんなで協力してきれいにすればこうなるのかな？でもあんまり想像できないし、できるような気がしない。なんでそう思うかなって、思ったけど、この辺（杉並区）で生まれてからきれいな川を見ていないから、想像するのが難しい。こういう活動をきっかけにきれいな川を知ってみんな意識できたら変えられるのかな、と思った。

中学1年生

初めは三島の水は浄水など、人間の手を加えられてきれいに保たれているのかと思っていたが、富士山からの湧き水で、地域の方々が限りある資源を守りながら大切に使っているということがわかった。三島梅花藻というきれいな湧水でしか生息しない植物もボランティアの方々が手入れや掃除をするなどして保たれているのだと知りました。自然を壊してしまうのも人間だけれど、守り再生させることもできるのだから、自然の植物、生き物たちと共存できるように、常に人間は努力をしなければならぬと思った。

高校2年生

僕は今回の事業を通して、特に英語の勉強をもっと頑張りたいと感じた。バスでネパールの人の隣の席になったのだが、自分の言いたいことが言えなかったり、一回で聞き取ってあげることができなかった。相手は日本語が少し話せたので大した問題にはならなかったが、やはり相手からしたら自分の話しやすい言語を話したいと思うだろう。今回の事業で一番驚いたことは、三島は最初からきれいな街ではなかったということである。住民、NPO、行政が協力してあそこまできれいな川、街を作ったのは凄いことだと感じた。

中学3年生

今回三島に行って、多くの人々の地道な努力で三島の水はきれいになり、今もきれいでい続けていることが良くわかった。川の清掃に8年、街の清掃にもう8年と長い時間をかけても観光客の数は増えず横ばいだったのに諦めず続けて、その結果が出てきた今でも毎日蛍の数を数えたり、梅花藻の世話を毎週したりと、その地道で直接的な活動に感動した。冷たく透き通った源兵衛川の中を实际歩いて、地元にもこうやって気軽に入れる川があったらいいのにと感じて。ジャンボさんがおっしゃっていたように、何かアクションに移せるといいと思う。

2. 保護者

報告会に 20 名近い保護者が参加してくれました。感想をまとめると、以下の通りです。

都会では身近に感じられない自然を本事業で体験することができ、意識が大きく変わりました。ネパールの学生が参加したことで国際交流ができたこと、そして異なる学年の子供達や、大学生のバディと共に活動したことがとても良かったです。

3. CFF

今回は、明治大学のゼミ生と CFF がコラボして企画運営を図りました。最初の頃はそれぞれの団体への意識が強かったのが、活動を続けていくなかで壁はなくなり、9月の報告会までには、仲間意識が強まりました。嬉しいことに、本事業のあと、中学1年生から大学生の中から、10名程度が CFF に入会してくれました。

その中にはネパール人の参加者もいます。このようにして、事業を展開することで、環境への意識アップや国際交流が広がることに大きな意義を感じています。

4. グラウンドワーク三島・EISJ (エベレストインター)

今回は、三島の水のことを学ぶエコツアーを企画、運営し、そこに国際交流の要素としてネパールのエベレストインターの生徒さん、先生も参加してもらいました。ところが、驚いたことに、グラウンドワーク三島の理事はネパールと縁が深く、ネパールのために様々な交流事業をやっていることを知りました。近々、GW 三島の理事、EISJ、そして CFF で会合を開くことになっております。今回の事業が縁でネパールコミュニティとの交流が盛んになっていくであろうことが期待されます。

※ 必要に応じて、枠を広げてください。

収 支 決 算 書

I 収入の部

項目	内容	金額
1 助成金	次世代育成基金活用事業助成金	721,000
2 その他収入	団体負担	31,993
収入合計		752,993

II 支出の部

項目	内容	金額			
		単価	数量	計	
① 助成対象経費				合計	752,993
(1) 旅費				小計	352,000
バスチャーター	①大型バス 7月17日	176,000	1	176,000	
	②大型バス 8月21日	176,000	1	176,000	
					0
					0
					0
(2) 謝礼				小計	83,855
体験学習謝礼	①GW三島体験学習7月17日（5000円×1名+3000円×3名）	14,000	1	14,000	
	②GW三島体験学習8月21日（5000円×1名+3000円×3名）	14,000	1	14,000	
	③ 楽寿園入園料	300	2	600	
	④ 実地踏査スタッフ謝礼	1,100	7	7,700	
	⑤ 実地踏査ガソリン代	3,000	2	6,000	
	⑥ 実地踏査現地スタッフ謝礼	1,555	1	1,555	
	⑦ 引率スタッフ謝礼	2,000	20	40,000	
(3) 印刷費				小計	297,991
	① チラシ作成	170,940	1	170,940	
	② 報告書作成	117,051	1	117,051	
	③ チラシデザイン料	5,000	2	10,000	
(4) 物品購入費				小計	3,801
	① 封筒代、文具代	1,430	1	1,430	
	② 封筒代	1,100	1	1,100	
	③ 水、氷代（現地調達）	1,271	1	1,271	
					0
					0
(5) 役務費				小計	15,346
	① レクリエーション保険	33	72	2,376	
	② 郵送料（高校宛）	7,410	1	7,410	
	③ 郵送料（報告書）	5,120	1	5,120	
	④ 振込手数料（大型バス）	440	1	440	
(6) 使用料及び賃借料				小計	0
					0
					0
					0
(7) その他				小計	0
					0
					0
					0
② 助成対象外経費（その他の経費）				合計	0
					0
					0
					0
支出合計（総事業経費①+②）					752,993